各骨眞形図
弘化三年丙午　鎌田玉澄

原形保存のため貴重な資料でありますから貸出 加筆 転写は堅くお断り致します。

牛込久雄蔵書

各骨真形圖

曩者浪花各務子徽單意於整骨術以木造為人
之全骨發明關節窠臼之機以便撫按治療之用
更著整骨新書圖画總擬和蘭書究微細以刊行于
世者久矣我大洲外科医官錦田正澄継其裘初受
業於紀之華岡翁爾来伎倆大進剖癌截瘤蹴者
伸躄者起於此乎聲名達外遠近諸治者受業
者四方接踵不絶愈更稽治未發明期効於將來
孜々勉而不舍焉去年乙巳之冬有刑人正澄與同
志五六人謀之請其屍而剖之内察臓腑之位置形
色与傳輸製造之理便医生觀者五十餘人知其機密
如夫骸骨以釜甑蒸之刮去其皮肉筋膜之附著者
令潔淨曝乾數十日藏諸櫝中便学者得明竅矣

節臼枢屈伸動用之機而治術之便於是乎出吏令画工腹部正志圖之遂成一小冊微密巨細筆之不遺至有所襲踏其古然亦正澄悉意之厚實不後学之一大奇賜乎正澄請予記其概略予也不辞其鄙褻喜識其所知以冠卷首云爾

觧剖執刀
松澤載清　樋口量春
鎌田新澄　松岡公正　岩井重長
糸川維寧

弘化三丙午歳初夏

岩井重克題書

東武川越
中嶌玄覺國光

曩者浪花各務子徵竿意於整骨術以木造為人云
全骨發明關節窠臼之機以便

見氣道（肺管）食道（胃管）項椎五軟骨之切断

首身切断全圖
并剖乳見裏面

剥胸皮
見肋骨

胸骨全圖

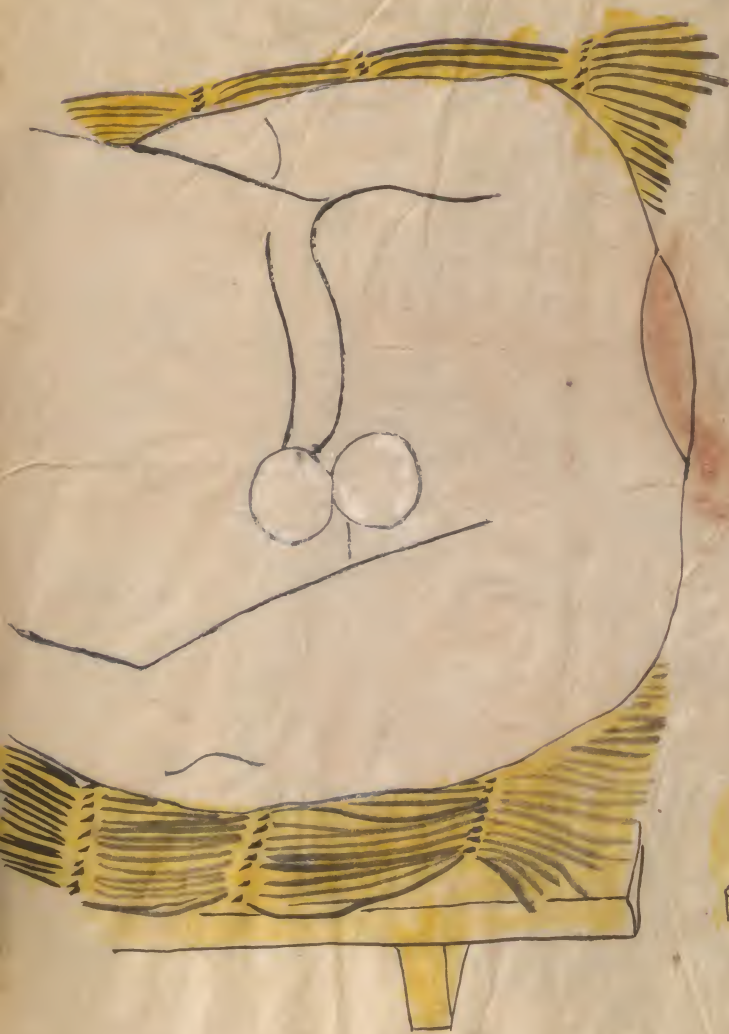
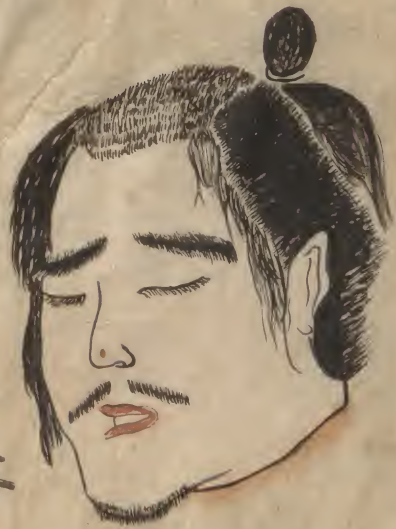
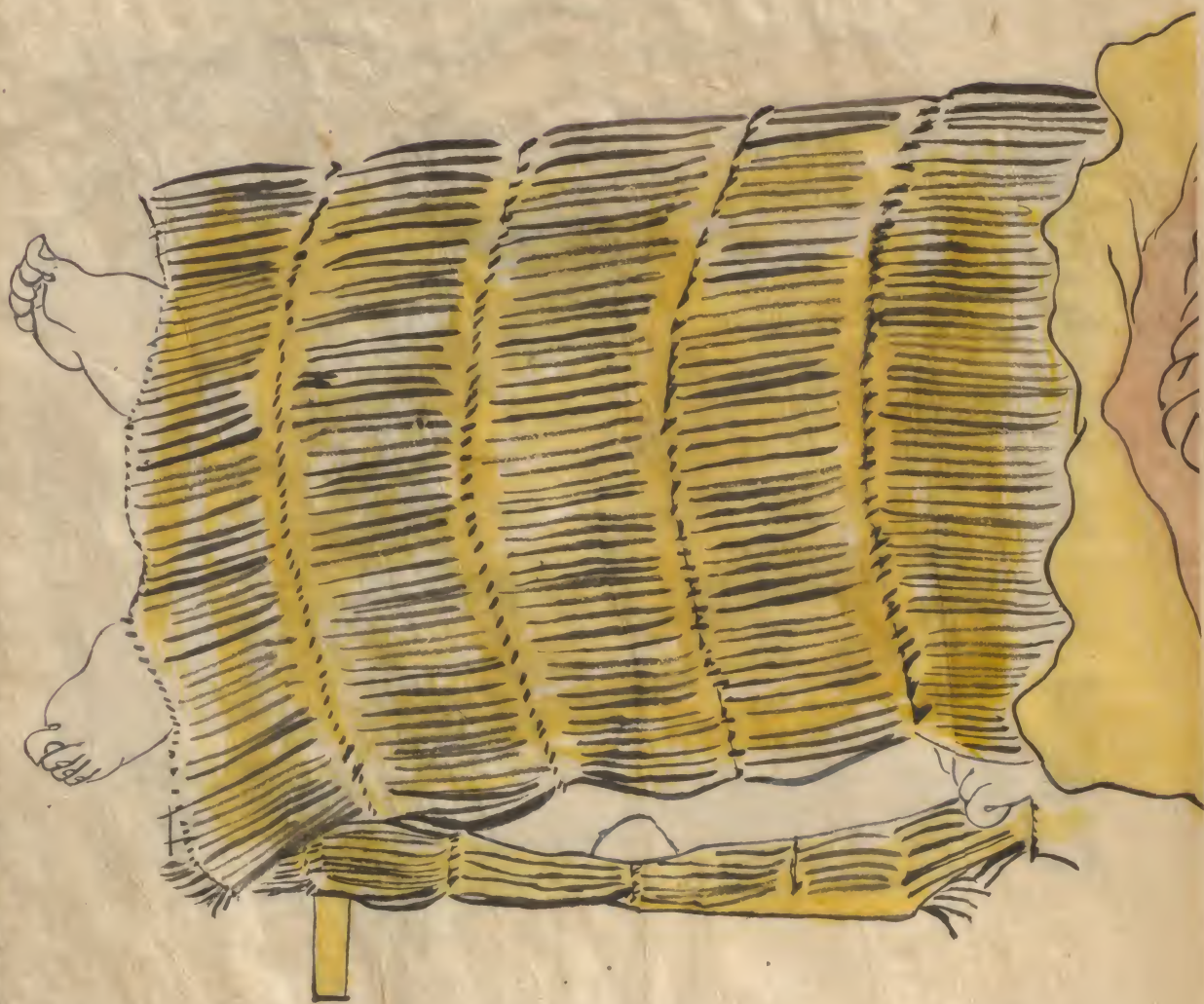
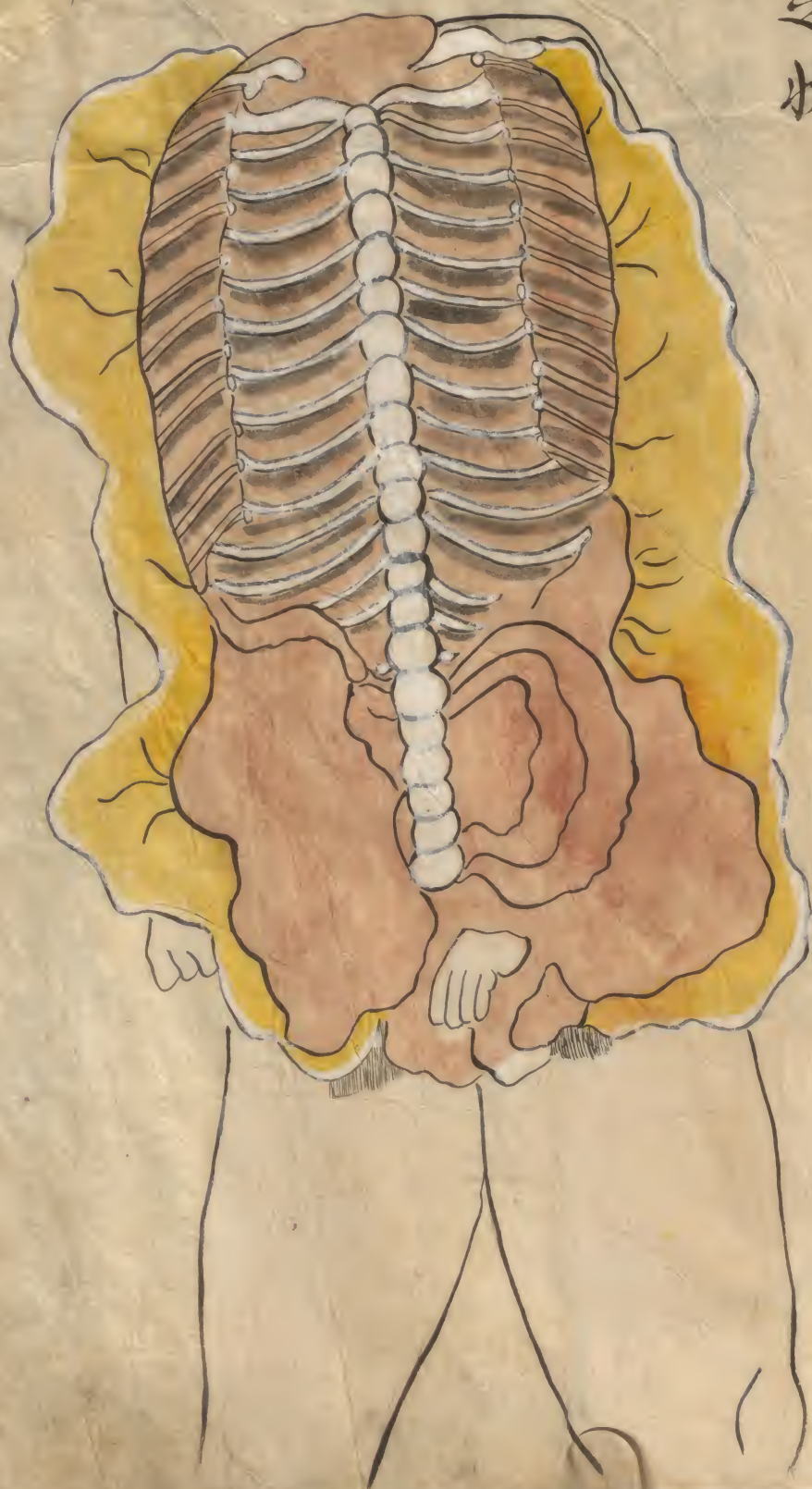
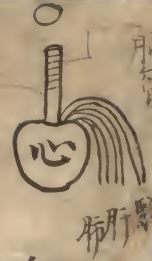
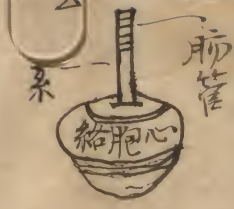
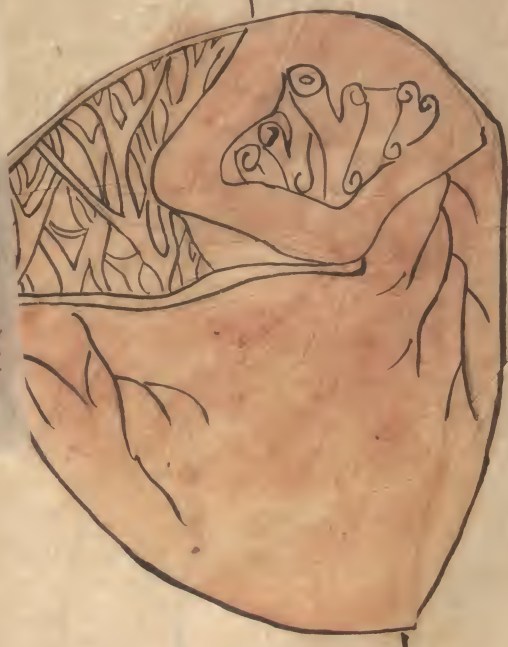
去胸骨
枇肋胃
開腹膜
見臟腑
之連接

臓腑連接之前面
同後面

太臓腑見
内腔之状

半切心見其ハ裏面

△心胞絡ハ心ヲ包ノ膜ナリ心下横ノ上竪ノ膜ノ下ニアリ其形細キ筋膜有テ絲ノ下レ心肺ト相連ル位相火ニシテソノ所擅中ニアタル臣使ノ官ニシテ喜楽ヲ出ス君ニ代テ事ッ

(生理)臣使の官にして喜樂を出る君主に代つて事をなす

○心ハ肺管ノ下膈膜ノ上ニアツテ脊ノ第五ノ椎ニ附其形尖圓ニシテ蓮蕊ノ如シ其中ニ穴数アリ多少同ジカラズ四ツノ系アツテ四臓ニ通ズ君主ノ官ニシテ神明ヲ出ス象ノ理ヲソナヘ萬事ニ應ズ

(生理)君主の官にして神明を出し象の一の理をそなへ萬事に應ず

上焦ハ胃口ノ上ニ出

上焦	胃口ノ上ニ出
中焦	胃ノ中脘ニアタル
下焦	闌門ノ下ニ起ル

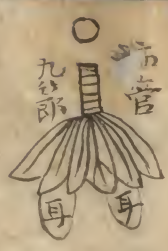
重要 三焦ハ人ノ三元ノ気ヲ主ドル決瀆ノ官ニシテ水道ノ出ル所ナリ

(病理)気を主(つかさ)どる決瀆の官にして水道の出る所なり

肺全形

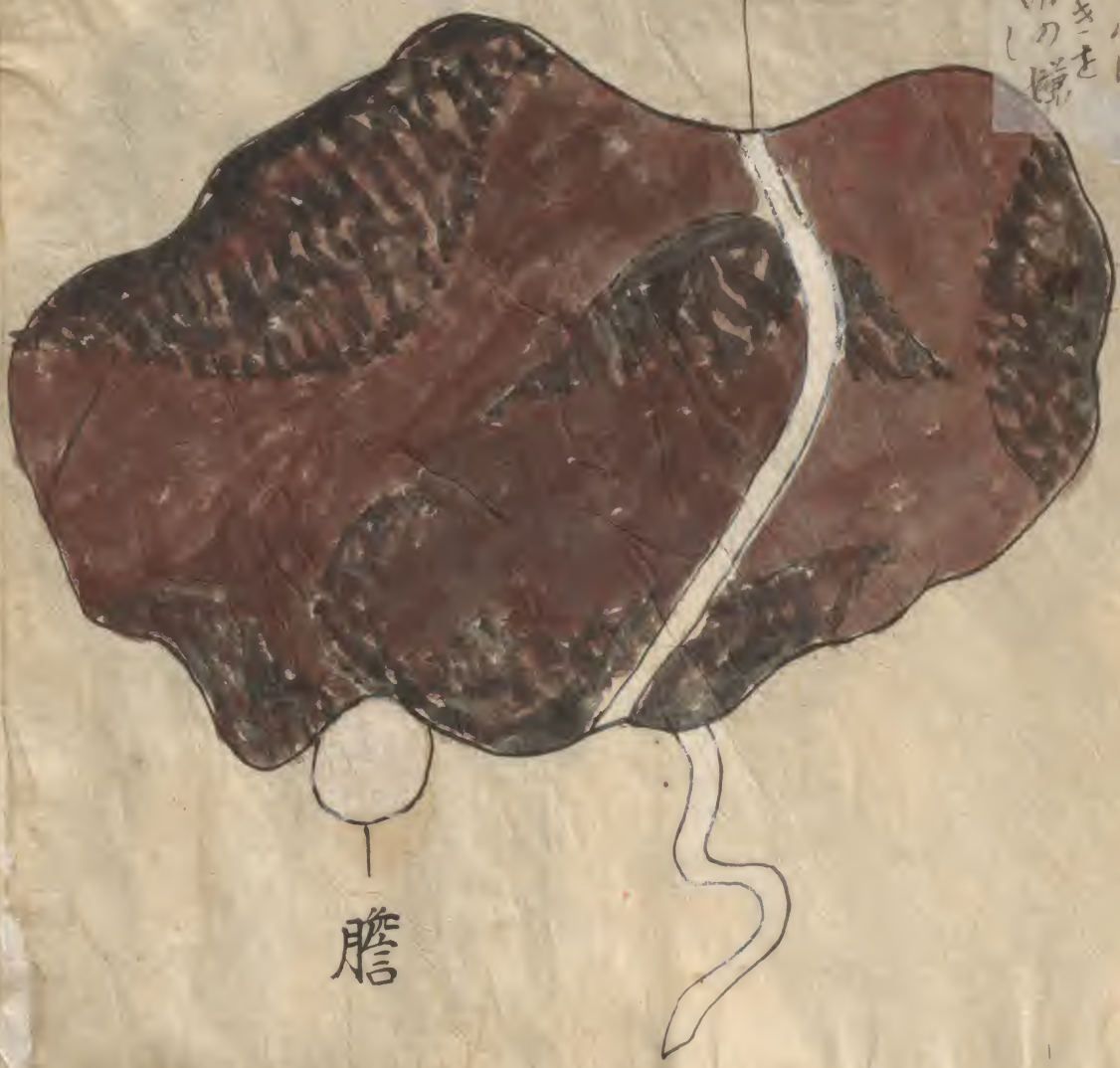
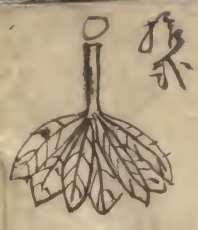
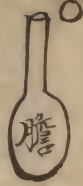
○肺ハ脊第三ノ椎(ダイ)ニ附ク其形六葉両耳共ニ八葉四方ニ垂テ中ニ二十四ノ空アリ相傳ノ管ニシテ治節ヲ出シ諸藏ノ氣ヲメグラス

○ 肺管 九節 耳 耳

華蓋ナリ

(生理)相伝の官にして治節を出し諸藏の気をめぐらす

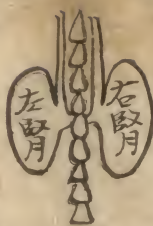
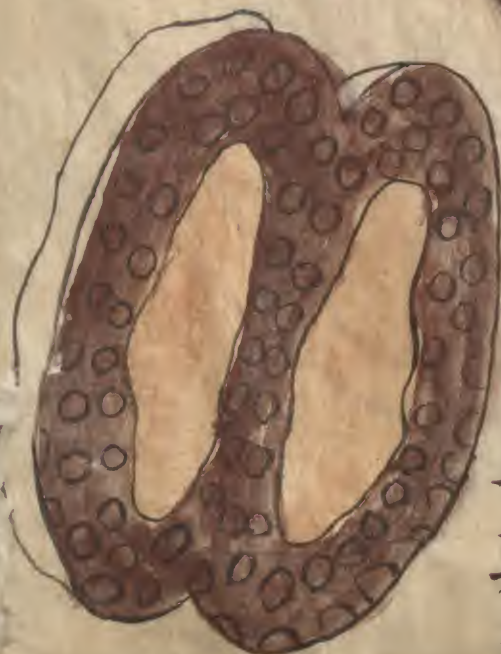
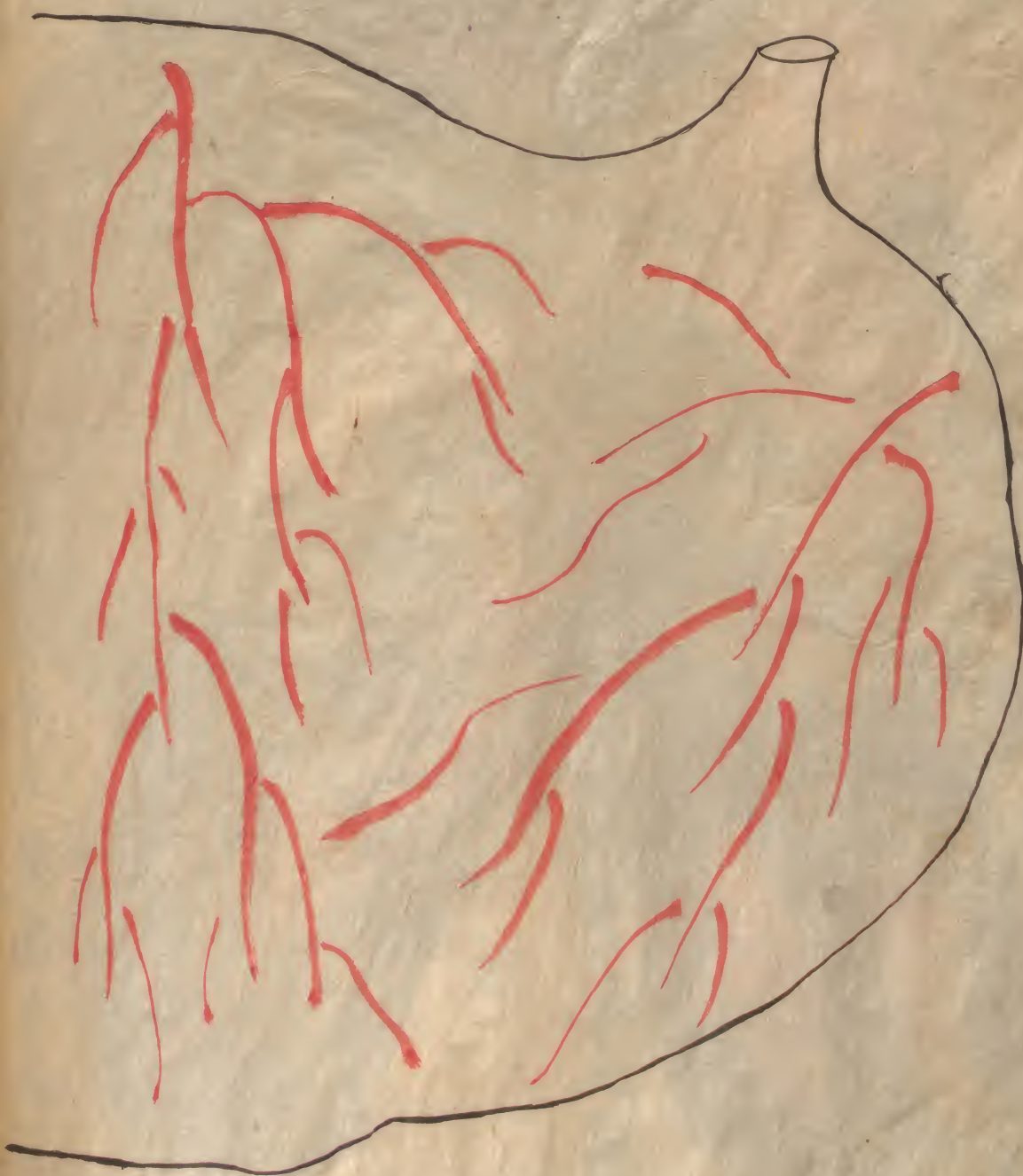
半切肺
見裏面

（生理）五臓六府に散し五臓も又その味わい
によつて これを受る 肝は酸を好む 心は
苦を好む 脾は甘きを好む 肺は辛きを
好む 腎は塩辛きを好む この如く患者の嫌
き好きに従つて 五臓の病発を知るべし
肝 全一サノ
○肝ハ胸ノ下ニ有上脊ノ九ノ推ノ下ニ
附左三葉右四葉凡七葉ソノ系（ツリ）
上肺ヲ絡（マトヒ）フ将軍ノ官ニシテ謀慮是ヲ
出入蔵也夫五味ハ口ニ入胃ニ納ル
トイヘ𠀋是ヲトロカシ消シテ脾ニ渡セ
ハ則チ是ヲ五蔵六府ニ散スルナリ
五蔵モ亦ソノ味（アジワイ）ニヨツテコレヲ受ルニ
肝ハ酸（スキ）ヲ好ム心ハ苦（ニガキ）ヲ好ム脾ハ甘キヲ好
肺ハ辛ヲコノム腎ハ鹹キヲ好ム此ノ如ク
病者ノ嫌ヒ好ム味ニ因テ五蔵ノ病ノ発
処ヲ知ヘシ
推蛮度
膽

拾七

羊切肝見
膽之附屬

○膽ハ肝ノ短葉ノ間ニアリ中正ノ官ニシテ物ヲサダメ決断スルコトヲツカサドル

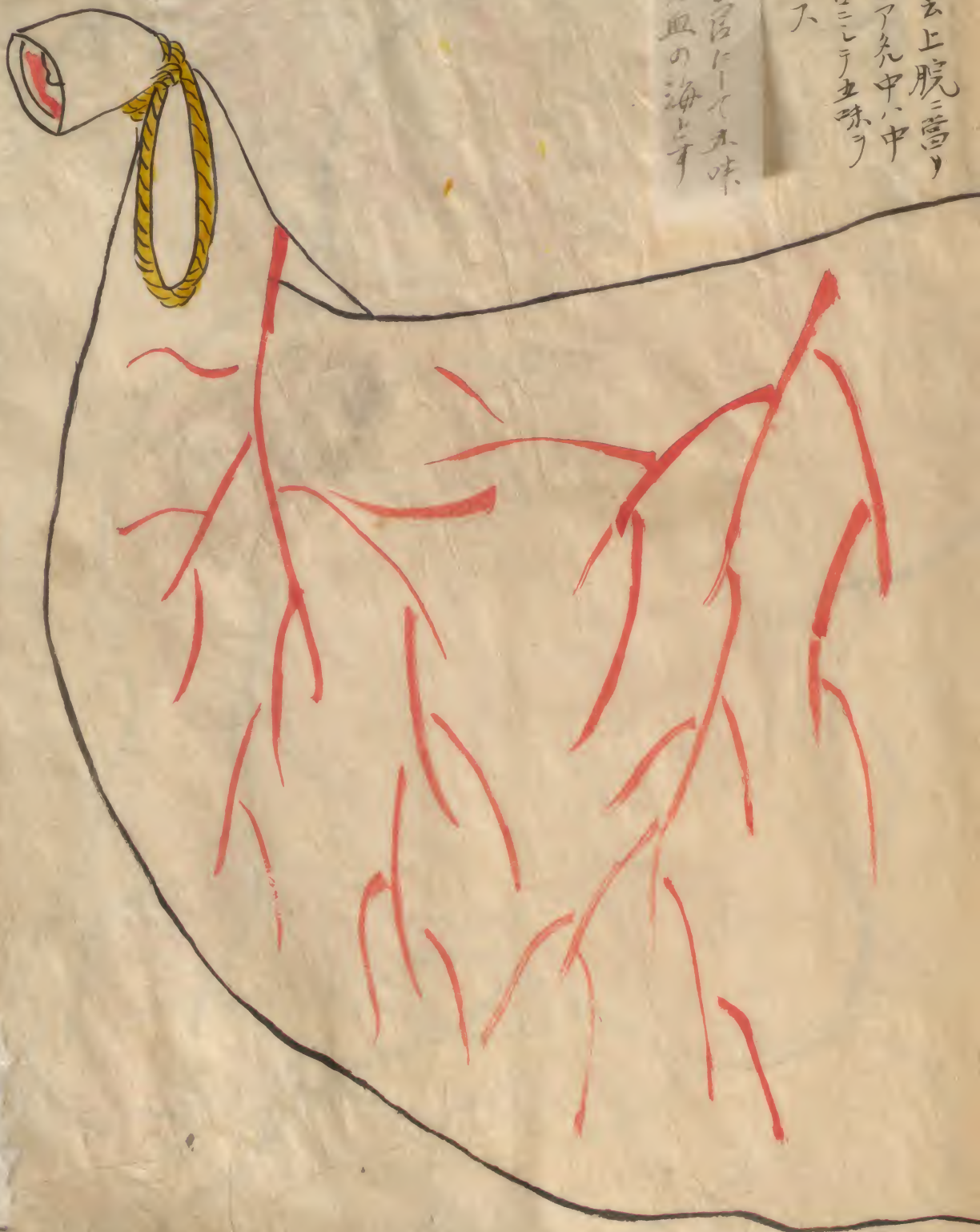
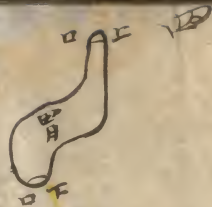
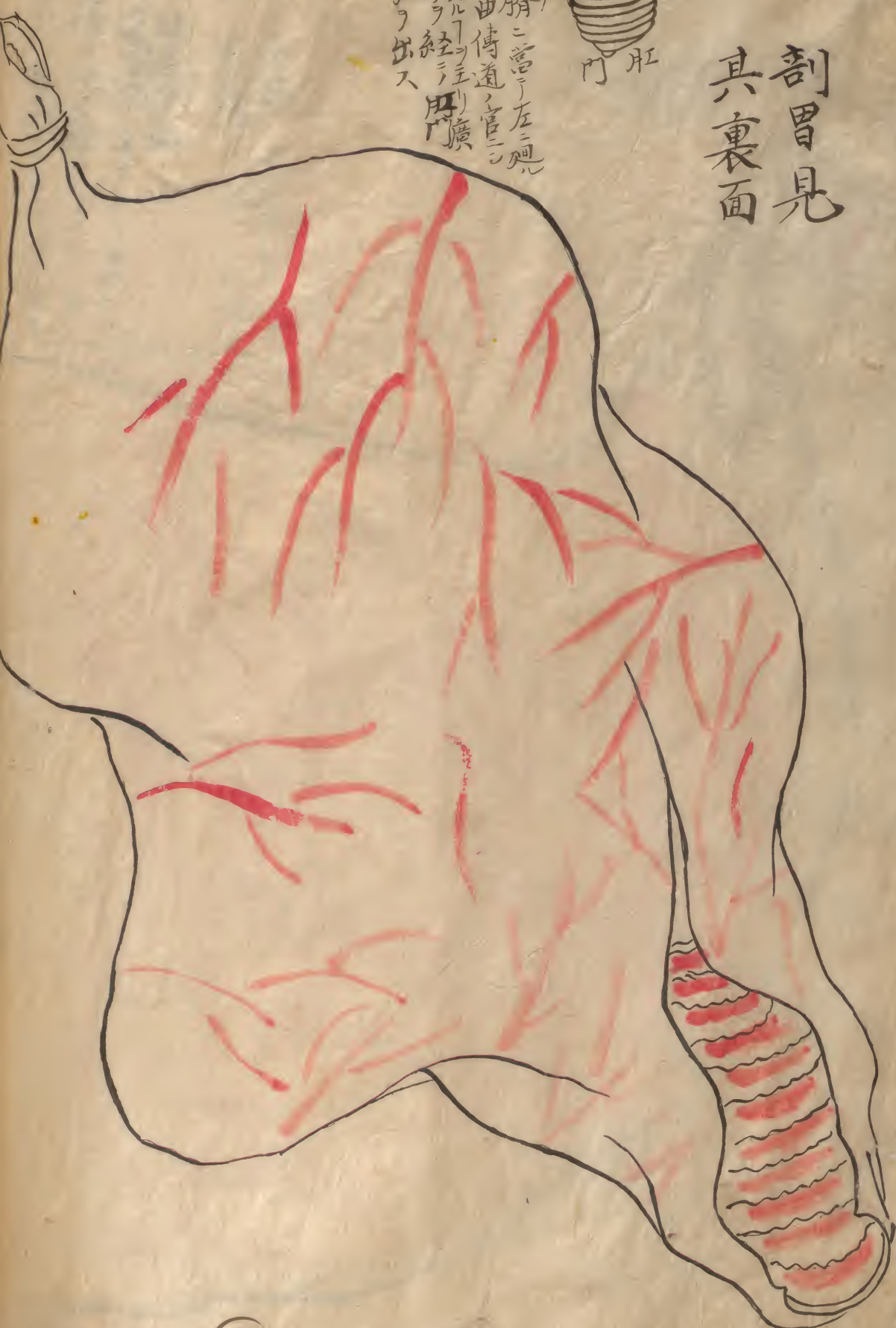
○脾ハ胃ト膜ヲ同フシテ胃ノ上ノ左ニ附クノ形刀鎌ノゴトク十一ノ椎ノ下ニアタル倉廩ノ官ニシテ五味ヲ出シ水穀ヲ消シテ四藏ヲ養フ

（病理）作強の官にして伎巧を出し精神の宿る所、性命の根原なり
脾全形
○腎ハ両枚ニシテ十四ノ椎ノ下両方ニアリ其形豇豆ノゴトクニシテ相並ビ曲ツテ脊ノ両傍ニ附作強ノ官ニシテ伎巧ヲ出ス精神ノ舎ル所性命ノ根ナリ
八
右腎
左腎
腎全形
中剖脾見其裏面
中剖腎見其裏面

胃全形

○胃ノ上口ヲ賁門ト云上脘ニ當リ下口ヲ幽門ト云下脘ニアタル中ハ中脘ニアタル倉廩ノ官ニシテ五味ヲ出シ水穀氣血ノ海トス

（生理）倉廩（そうりん）の官にして五味を出し水穀気血の海とす

上口

胃

下口

割胃見其裏面
弐
大腸
上口
肛門
大腸ハ臍ニ當テ左ニ廻ルヿ十六曲傳道ノ官ニシテ變化スルヿヲ主リ廣腸直腸ヲ經テ肛門ヨリ大便ヲ出ス

剖腸見其裏面
○小腸ノ上口ハ
臍ノ上二寸ニアリ則
チ胃ノ下口ナリ小腸
ノ下口ハ則チ大腸ノ上
口ナリコレヲ闌門トモ云
後ハ背ニ附前ハ臍ノ上ニ
附左ニ廻リ畳積ヿ
十六曲受盛ノ官ニシテ
化物ヲ出シ大小便ヲ別チ出ス
ヿヲツカサドル
六
上口
小腸
下口

中剖膀胱見其裏面

○膀胱ハ十九ノ椎ニ當ル腎ノ下大腸ノ前ニアリ下口アツテ上口ハナシ小腸ノ下口ハ則チ膀胱ノ上際ナリ州都ノ宮ニシテ津液ヲ蔵ム小腸ヨリ別チ出ス所ノ水液膀胱ノ上際ヨリ滲入テ小便トナリ出ルナリ下口ハ前陰ニツラナツテ溺リノ出ル所ナリ

陰茎全形

半切陰茎見其裏面

尿道

半切見其表裏面

睾丸全形

開眼胞見眼
毬并見鼻
耳之内面

剥頭皮見脳
蓋骨之交會

半断脳蓋骨
見脳 前面

同後面

去脳見脳蓋骨之
裏面

二枚
膝蓋骨
總名 胻骨 又 小腿骨 輔腿骨
膕中 膑骨
二ツニ分ツ 假推骨 即 薦骨 五枚
尾骶骨 四枚 八膠孔アリ
髋骨 脊骨ニ連ス
腸骨ト云 此骨ノ左右前面ニ合たル處ヲ
輔腿骨 合併二枚
腓骨
内踝
外踝
跟骨
下ハ腔骨
小腿骨 左右二枚
跗骨
蹠骨
四趾骨
拾二枚
五枚
四指骨十二枚
拇指骨 各二枚

骨骼全部大體骨
合從二百八枚定
其外ニ歯三十二枚定
全骨前面
内椎骨三拾二枚
五拾四枚
膀骨壱枚
肋骨二拾四枚
頭蓋骨
單骨ハ一枚頭後頭前頭底
額骨　枕骨　蝴蝶骨
篩骨ニ
對骨ハ二枚究
顱頂骨　顳顬骨
則長骨ハ一名管骨ニ即剛骨トス
則短骨ハ一名扁骨ニ一軟骨トス
骨ノ両端相接處ハ悉ク皆軟骨アリ
皆靱帶ニテ附着ス
肩胛骨
上膊骨
左右二枚
手骨左右六拾四枚
外踝
内踝
大腿骨
左右二枚
足骨左右
合從六拾二枚
膀骨全部一枚内三ッニ分ツ
假椎骨即薦骨五枚
尾骶骨四枚八膠孔アリ
拇指
食指
膝蓋骨
小腿骨
左右二枚
輔腿骨
合併二枚
跟骨
趾骨

同後

跟骨七枚
跗骨五枚
四趾骨十二枚
拇趾二枚
左右合併五拾貳枚也

頭骨前面

頭骨側面

内之縫合謂之衲
此圖施存則
失真矣是以
不爲意焉

前歯ハ上下八枚
角歯ハ頬牙)上下四枚
齨歯ハ上下二十枚
全三十二枚定式

同裏面

關節窩

見下齶全形側面

頷骨

旋廻尖起

關節頭

烏嘴尖起

下顎骨

頸項椎表裏側三面

裏面

表面

側面

載顱椎裏面

同表面

磑様椎裏面

同表面

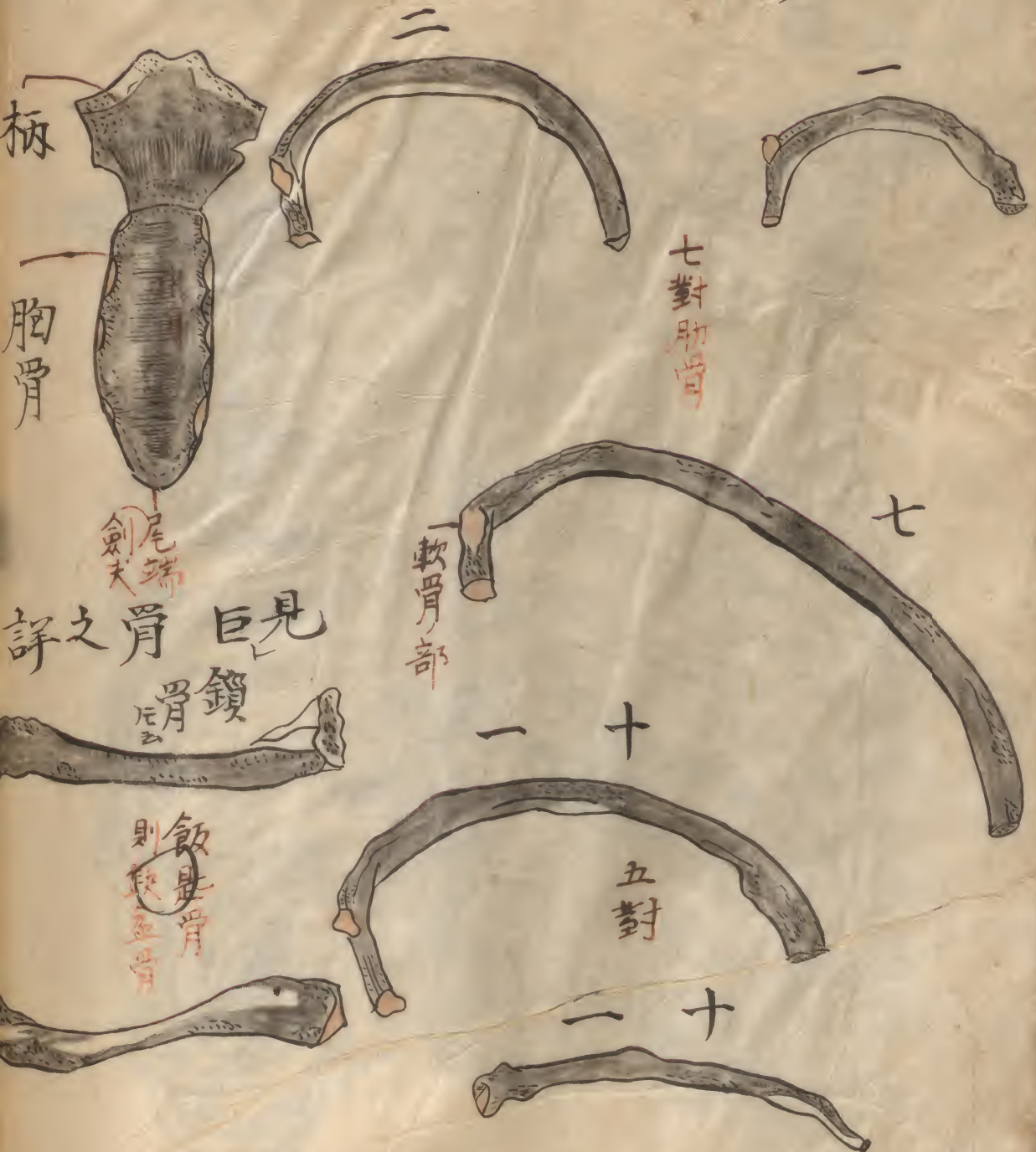
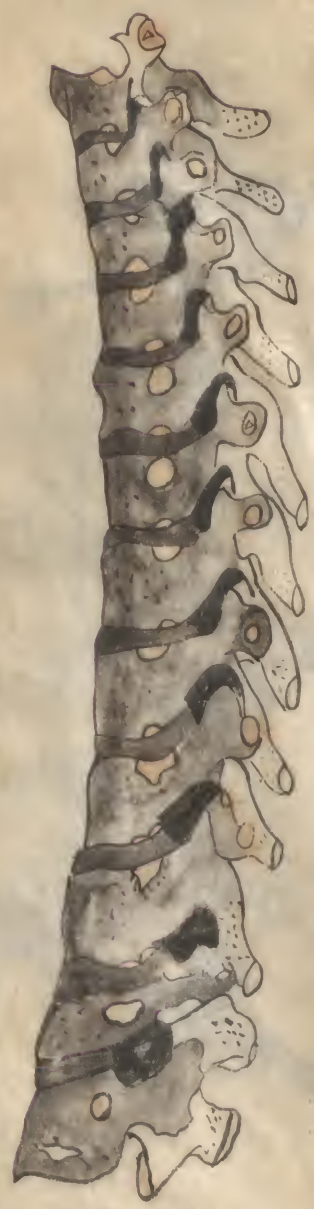
第三椎裏面

同表面

同側面

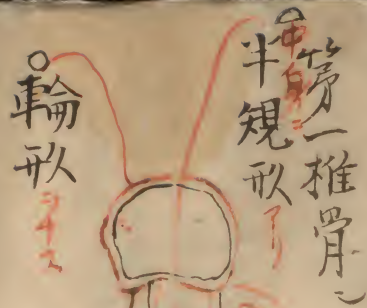
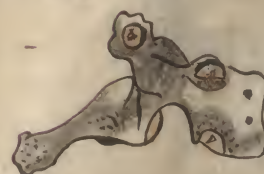
見肋ソ胸タ巨レ胛ラ諸骨及背椎連續之前面

ロハ脇肋之符者
イハ膺肋之符者
以厭煩不名骨記之唯以一符統之後面圖亦同之

分断肋骨示其詳
十二對
以下諸圖有左右者
率舉其右而略其左
如其擧左者略其右
此以無異也宜推知
見胸骨之詳
一
二
柄
胸骨
七對肋骨
七
尾端
軟骨部
見巨鎖骨之詳
十一
五對
十二
飯匙骨

見背椎十二枚之三面

裏

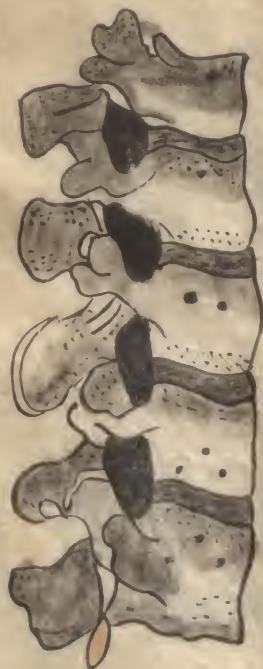
表

側

分断背
椎見具詳
第一椎骨之
半規形アリ
輪形コナス
横尖起
斜尖起上下両面ニアリ二尖起アリ
棘尖起
斜尖起
横尖起
第一之裏面
第十二之裏面
第一椎
棘尖起
同表面
同表面
同側面
同側面
背節所接着之痕
十二肋所接着之痕

見腰椎之三面

裡

表

側

分斷腰椎見其詳

第一之裏面

同表面

同側面

第五之裏面

同表面

同側面

見自項椎至尾骶三面全形

髖髎ノ骶之三骨見其ノ詳

一 骶骨

二 尾骶骨

三 腸骨 髀樞窩 關節窩ト曰フ

四 横骨

五 臏骨

六 臋骨

前面

後面

臏骨之側面

見右方

胛骨裏面

肩胛骨ハ
即飯匙骨
一名缺盆骨ト云

同表面

見右方

臑骨

樞頭

表

膊骨

裡

内髁

外髁

見右方臂輔両骨之連續

分斷臂輔両骨見其詳

一臂骨
二輔骨

見右手腕骨

表

裡

分断手腕諸骨見其詳

指骨末節

同中節

同本節

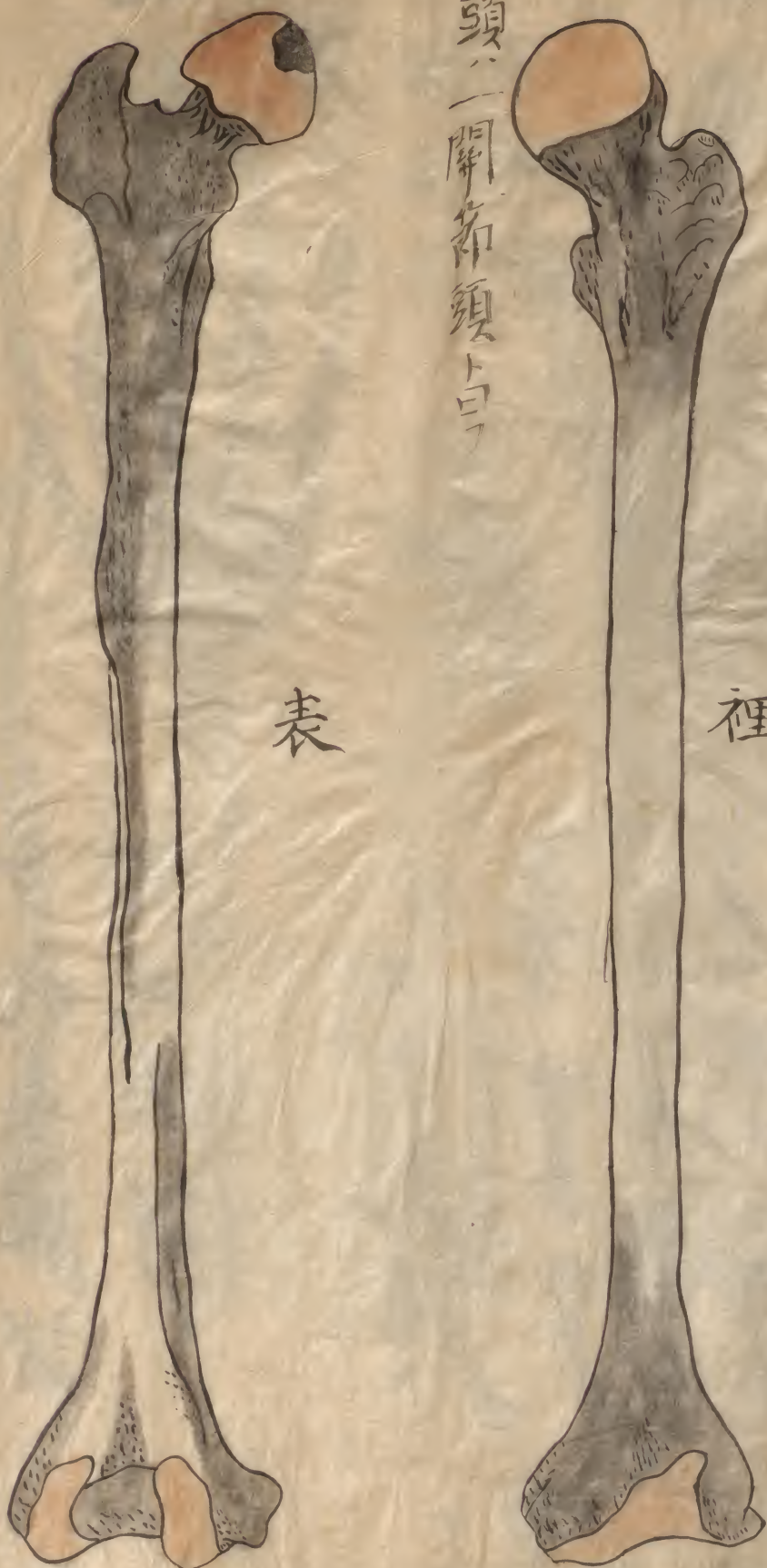
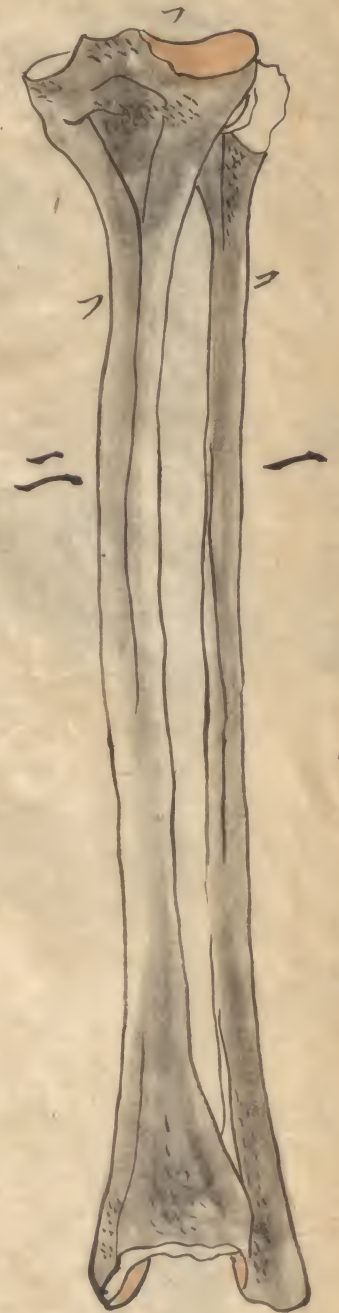
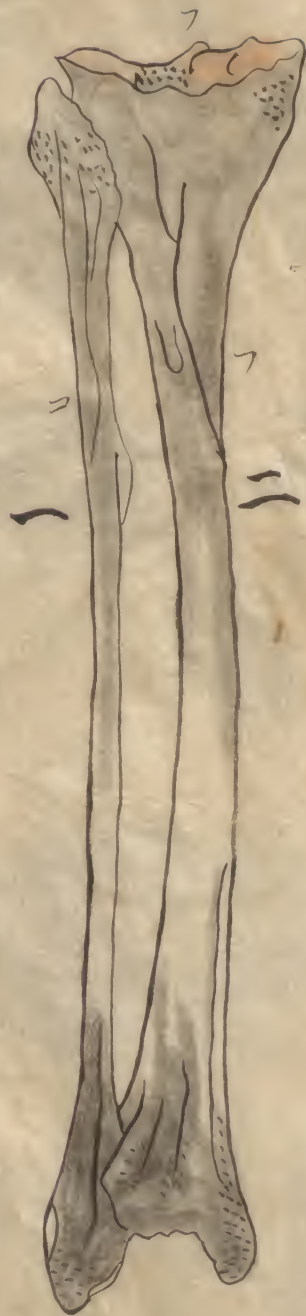
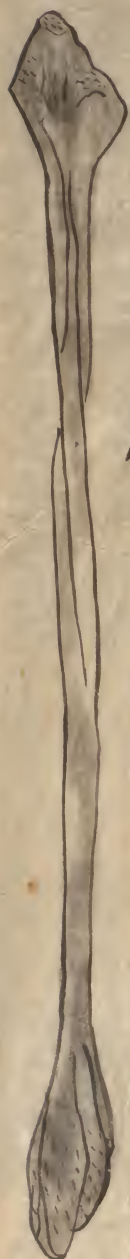
掌骨

腕骨

拇指骨末節

同中節

同本節

見右方大腿骨
樞頭ハ一關節頭トヨフ
裡
表

見
右方
小腿
骨腓
骨之
連續

一 腓骨
二 小腿骨

見膝蓋骨
表
裏
二
小腿骨
一
腓骨

見左方脚腕骨

分断右方脚腕諸骨見其八詳

右圖ハ眞ノ骨骸ニ擬シテ十四種二十四別ノ形狀及ビ八種ノ體質ヲ眞ニ寫シテ毫毛釐ノ違ヒ勿ラシム但シ濃淡ノ黒色及ビ代赭石ヲ以テコレヲ彩シ或ハ暈抹ヲ用ルモノハ眞色ニ非ズト雖モ特ニ覽者ヲシテ骨ノ突起陷沒孔穴相軋磨スル所ヲ辨識セシメンガ為ニス宜ク形質篇及ビ機關篇ト參看スベシ

于時安政五歳
戊午青陽中
東都本郷竹町
於桃林軒塾寫之

群馬縣前橋市

新庄

牛込接骨院

初代 久雄

二代 信喜

原形保存のため貴重な資料でありますから貸出し加筆転写は堅くお断り致します

中込久雄花書